

令和8年度 日本農業経営学会研究大会のご案内（第1報）

令和8年度日本農業経営学会研究大会（宇都宮大会）は、下記の日程で開催いたします。

1. 日時 2026年9月11日（金）～9月13日（日） [予定]
2. 会場 ライトキューブ宇都宮（栃木県宇都宮市宮みらい1-20） 9月11～12日、
宇都宮大学峰キャンパス（栃木県宇都宮市峰町350） 9月13日
3. 日程 第1日 9月11日（金）地域シンポジウム [予定]
第2日 9月12日（土）大会シンポジウム，総会，懇親会 [予定]
第3日 9月13日（日）分科会，個別報告 [予定]

4. 大会シンポジウムの内容

テーマ：多様な経営目標と資源制約に直面する農業経営主体の情報利用と経営発展

前年度のシンポジウムでは、令和7年度・8年度シンポジウム統一テーマ「多様な経営目標と資源制約に直面する農業経営主体の意思決定支援の理論と実際」のもとで、「資源制約」と「経営目標」の視点から農業経営体の意思決定の実態を解明することにより、多様な制約条件下でそれぞれの経営目標の達成を目指すという『実践的な農業経営学』の構築を目的とした理論的・実証的な議論を行った。これらの議論からは、具体的に、生産要素市場における価格・供給の変動リスクの拡がりなどの経営外部環境の変化に伴い深刻化する資源制約、経営者の世代交代や多様な企業者の出現・従業員の技能知識の向上等の経営内部環境の変化に伴い複雑化する経営目標の視点から農業経営主体の意思決定の実態を解明することが、『実践的な農業経営学』の構築を図るための喫緊の課題として確認された。

他方、従来、農業経営学に対しては、農業経営主体だけではなく、普及・指導の主体、行政担当者、さらには技術研究者等の主体からも、それぞれのコンサルテーションの場面で利用可能な理論や手法の提供が求められていたという歴史的な経緯も存在する。すなわち、農業経営研究に対する実践的研究への発展の期待は、営農現場において長く解決されてこなかった本質的な課題であるといえよう。

そこで、本年度のシンポジウムでは、前年度と同様、多様な「資源制約」と「経営目標」の視点から農業経営体の意思決定に注目し、研究だけではなく、普及・指導の現場をもターゲットとした農業経営研究の実践性への貢献を目的とする分析視点の設定と研究課題の整理を試みる。

座長：松村一善（鳥取大学）・関根久子（東北大学）

第1報告 「農業イノベーションの諸視点から見る農業経営研究の到達点と課題」（仮題）

小川景司（神戸大学）

第2報告 「農業経営発展におけるJA 営農指導事業の展開と情報利用」（仮題）

西井賢悟（JCA）

第3報告 「農業経営発展に向けた情報利用に関する実用化研究と普及支援」（仮題）

前山薫（岩手県）・福川泰陽（宮崎県）

第4報告 「欧州における農業アドバイザーサービスの展開と農業経営発展」（仮題）

浅井真康（京都大学）・Hans Henrik Drewsen Fredsted（Agrovi：デンマーク）

コメンテータ：濱村寿史（秋田県立大学）・吉田晋一（農研機構）

5. 個別報告申し込み

会員の皆様には6月上旬に大会案内状をお送りします。詳しくはそちらをご覧ください。

なお、個別報告申し込み締め切りは2026年7月6日(月) [必着]を予定しています。

6. その他

今大会の参加受付は、事前登録制を予定しています。詳しくは、6月上旬送信予定の大会案内状をご覧ください。

前回大会と同様に、報告要旨等は会場で冊子体を配布しません。報告要旨等は、参加者専用サイトからダウンロードしていただくことになります。